

令和6年度 糸魚川売れる米づくりコシヒカリ生育情報 No. 6

令和6年7月18日
糸魚川農業普及指導センター

1 7月18日現在のコシヒカリの生育状況（指標値との比較）

田植日・調査ほ場	草丈	茎数	葉数	葉色
田植日 5月3～21日 東海、西川原、東中、榎	並	やや少～並	やや早	並～やや濃

- 生育には場間差があり、葉色が指標値を下回るほ場も見受けられます。
- 平坦地の田植えが5月10日頃のコシヒカリの出穂期は7月31日頃（平年より2日早い）と予想されますが、今後の気象の経過により予想よりも早まる場合もあります。
- なお、調査ほ場ごとの出穂期の予想は以下のとおりです（表参照）。

表 調査ほ場ごとの予想出穂期（田植え時期は下段調査結果表参照）

調査ほ場（地区名）	予想出穂期	調査ほ場（地区名）	予想出穂期
東海（早川地区）	7月29日	東中（根知地区）	8月6日
西川原（今井地区）	8月5日	榎（能生地区）	8月4日

2 今後の管理について

- 7月18日発表の1か月予報によると、8月は気温が高く推移すると予想されています。後期栄養の確保（穂肥）と水管理がととも重要となります。
- 1回目の穂肥をまだ施用していない場合は、生育状況を確認の上、**すみやかに1回目を施用**しましょう。
- 2回目は、高温が予想される登熟期間に確実に登熟するための栄養を確保するため、**窒素成分で1.5kg～1.8kgを確実に施用**しましょう。

【コシヒカリの2回目穂肥について】

2回目の穂肥は窒素成分で1.5～1.8kg/10a(例:越後の輝き有機50穂肥で12～15kg/10a)

散布時期 出穂10日前（葉耳間長0、幼穂長8cm）又は1回目穂肥の7日後

- 2回目の穂肥を施用した後も葉色が淡いままの場合は、3回目の穂肥を施用してください。
- 全量基肥（一発元肥）体系でも葉色が淡い場合は、穂肥の追加を検討しましょう。

3 7月18日のコシヒカリ生育調査結果

調査項目		ほ場場所 (田植日)	指標値 ※	東海 (5月3日)	西川原 (5月15日)	東中 (5月21日)	榎 (5月12日)
草丈	本年値 (cm)		79	84	76	77	82
	平年比 (%)			104	98	102	105
	指標比 (%)			106	96	97	104
茎数	茎数 (本/m ²)		420	363	511	429	355
	平年比 (%)			79	124	90	83
	指標比 (%)			86	122	102	85
葉数	本年値 (葉)		12.0	12.6	12.5	11.7	12.2
	平年差 (葉)			+0.1	+0.2	-0.1	+0.3
	指標差 (葉)			+0.6	+0.5	-0.3	+0.2
葉色	本年値 (SPAD値)		32.5	32.0	32.0	37.8	35.4
	平年差 (SPAD値)			-0.4	-1.2	+2.8	+1.1
	指標差 (SPAD値)			-0.5	-0.5	+5.3	+2.9

※指標比・差とは、目標とする理想的な生育値（指標値）に対する現在の生育値の割合・差
次回の情報提供は7月30日頃の予定です。